

山
易
鈔

巽
小畜
家人
益

无妄
噬
嗑
益
頤

六

三才藏書

巽為風



○繇曰巽ソシハスコシ小亨トラル利有攸往リアリアルニトコロ利見大人ユク 巽ソシ也カ也カ也カ

ふむぞ一陰二陽のりよあるまてよくあるふの性何れぞ陰乃

陽よあしがあは道のたぐいよなほよ利まるよあるまてよなほぞ心

おもて大人よあなるぞよく懐切かして物よたがかりよよく陰の

陽よあしがあは道のたぐいよなほよ利まるよあるまてよなほぞ心

○彖曰重巽ソシニソシ以申命カサメイ と言ハ上下巽ありま巽ありよあり

ハト切かとはは下なるもの其命どうけあしがあを風の雨として

入るるをすけにびくく推してあがるるをき風うよよするあ

象曰人の肌はどなるでつゝ心かしてふにぞはれし物ゆくよの
心他のところよも跡まなき類も心づき候もあまてハナよ命
むらくとたゞ教道子時あまハナよくそ命よ跡の志行ふと
阿る屋うみ情あまてふにかり

○象曰隨風巽君子以申命行事 ときは風の重てね
随ハ巽の象なる故君子是とんく命行まで爻行つて下
あまかひてよまきぞけん持ちてよなるものハナよあまかひて
まあしりるものハナよあまかひあまふ下よくあまかひて其
理よあまかひ衆人の心よ時屋うよね候てたまの情まであま

○初六進退利武人之負 けあそり下は陰柔ふくむりよ
阿るよてい屋うまもあまふまはけよかふいさなる故よそ志を
それあそりてあまてあむどかへにぞて下信進退あまかひ
此とあらざるごとく此あま武人の負あまある故よ志と剛子用ひく
利まらあまあまてふに志心持候てあまり物とあそれるあ
あまき屋う小正決断あるの慎ふてよまなり

○象曰進退志疑也利武人之負志治也 ときは進
このあむまるところ故あまなるあま心疑思ふまらなる故武
人の剛貞と用ひ油も屋うあまふくそ志候なる故よ情を

○九二巽在_ニ牀_ニ下_ニ用_ニ史_ニ巫_ニ紛_ニ若_ニ吉_ニ无_ニ咎_ニ 此_レ南_ニ取_ニ陽_ニを
以_テ位_ニあるハ床_ノの_リ あり_ニごと_ク其_レ巽_ニふ_ニごと_クあ_レむ_レごと_ク
き_ニごと_ク人_ノの_レ巽_ニふ_ニごと_クハ恐_レ怯_ニし_レ何_レら_ニされ_レば_レ危_ニは_レら_レい_ニま_ニあ_レり_ニから
され_レ若_シま_レつ_レる_レ者_ハあ_レあ_レま_レつ_レく_レ恐_レ懼_ニら_レき_ニごと_クけ_レん_レ持_レあ_レく_レ史_ニ
巫_ニふ_ニの_レ意_トを_レ神_ニ使_ニみ_ニ通_ニぎ_レる_レごと_ク誠_ニを_レ人_トと_レ動_ニし_レ言_ト
榮_ニと_レて_レい_レね_レい_レ少_レ危_ニし_レん_レぎ_ニん_レなる_レ情_トを_レて_レ名_ニなり_レ

○象曰紛若之吉得中也 と言ハ誠_ノの_レ至_ニと_レ通_ニぎ_レる_レは_レ又
多_クして_レ中_ニ實_ニある_レは_レ人_ノの_レ信_ニぎ_レる_レ知_レ也_レ け_レん_レ持_レあ_レく_レ神_ニを_レ使_ニみ_ニ
誠_ニの_レと_レく_レよ_レつ_レつ_レと_レ名_ニ也_レ

○九三頻巽吝 け_レあ_レい_レま_レあ_レる_レ陽_剛不_レ中_ニ小_ニして_レト_ノの_レと_レる_レ
ふ_ニら_レり_レは_レま_レに_レ實_ニ少_ニく_レよ_レく_レあ_レる_レが_レふ_ニの_レふ_ニあ_レら_レむ_レあ_レいて_レ巽_ニを_レ使_ニみ_ニ
な_レま_レ知_レの_レの_レけ_レん_レ持_レあ_レの_レ剛_ニま_レつ_レつ_レと_レ中_ニと_レ夫_ニま_レつ_レき_レ極_ニよ_レ情_ニ
く_レく_レも_レに_レあ_レる_レ

○象曰頻巽之吝志窮也 と言_ハら_レ其_レ才_ニたる_レ巽_ニく_レあ_レる_レふ_ニ
の_レよ_レあ_レら_レざ_レれ_レ其_レ志_ニ成_ニ行_ニじ_レた_レな_レよ_レあ_レいて_レあ_レい_レが_レあ_レく_レ我_レ志_ニを_レ
困_ニ窮_ニま_レる_レと_レあ_レる_レを_レけ_レん_レ持_レあ_レて_レいつ_レま_レく_レも_レよ_レく_レあ_レら_レい_レづ_レいて_レ
け_レん_レ持_レあ_レる_レ

○六四悔元田獲三三 け_レあ_レる_レ前_ニと_レ陰_ニ柔_ニま_レて_レた_レま_レけ_レ

意まらぬのひきこみしるを悔あるを陰中陰の位子ありて
其爻のちがひをばてどしよよくあてはひて悔ある爻なりと云
程子田の三品とゆるごとく祭祀とすまのそを(賓客の位子
亮市の位子のあるぞげん物とひとすよよくあてはひ正爻候か
して功あるとてよきなり

○象曰田獲三品有功也と云らよく其とすは巽て中道
とつくさば田の時三品とゆるごとくあまねはんよ及程の功とあり
とありんと云ふ也

○九五貞吉悔亡无不利无初有終先庚三日後庚

三日吉 此爻は巽の位子居て巽の主人と成て命令とあ
まぬやま程よく中正のたぐいし道とひ巽の言成を爻あ
らば悔ある者七て利する爻とむ命令のあり爻よあはなる
爻あるぞ物始終とよくそのつら成先庚三日後庚三日と云ぞ
よくけん物と悔あらばよく爻とむからんとよはよ爻とてある
爻あらんと云ふなり

○象曰九五之吉位正当中也と云はけぬ爻の吉ある爻八位

と爻して中道よありつよなり物のこ不及はま程よあ後と
よく悔あると云ふなり

○上九 巽在牀下 喪其次 大行貞 凶 是南也 死也 曰其下の
心少く 巽より下るものごと 知るべき床の 下ありとはあむまらふ
よりのの義なり 喪主資斧 とき云ハ陽剛ふして 亡きなり
のめ 捨るしめふ 喪ありより 正道子あらざりて 凶と云ぞ
は心持ふく 身きたる ざる 喪あり 居らうとありて 喪より
愈ど 悔より ありて 悔より 悔より あり

○象曰 巽在牀下 上窮也 喪其資斧 正乎 凶也 ときハ
牀よりあるは 上より 居る 喪の ありて 喪より 悔より あり
自失とあり 上より 喪ハ 正し から 悔より ありて 喪より 悔より あり

物のさる 喪と云ふ 悔より 我より ありて 悔より ありて 悔より あり
ても 悔より あり

○元龜曰 風行草偃之課 ときハ 我身の 行は けきバ
草の 偃より 悔より ありて 悔より ありて 悔より あり
下效と云ふ 悔より ありて 悔より ありて 悔より あり

○ト解曰 巽者 順也 其象為風 風之 偃ある 悔より ありて 悔より あり
令さる 悔より ありて 悔より ありて 悔より あり
こざる 悔より ありて 悔より ありて 悔より あり

○ト彖曰 所動皆順 嘉命 有重 ときハ 悔より ありて 悔より あり
ト彖曰 所動皆順 嘉命 有重 ときハ 悔より ありて 悔より あり

本あるにふてくも情行のあらば人皆あとかひのうらむ
めらん念念あをまらむも程たごああらばも道登りよと
るよあむむと云義あり

評曰乃順成天スナハチニメカウテナス と云は天理よあとかひの順成の行ひ

あゝバ袖のささりたふして通ぎるまあらむ袖のバ所トコロ作ス作ス
順して進達とあらんと云義あり

風天小畜

○繇曰小畜亨密雲不雨自我西郊ミヤウ テクハトラル ミツ ラシメズ アメクラヨリス ヲカ セイ ヤウ 小畜ハ

まこととぞむむるともむむ一陰して五陽といごなふハ小畜ハ
象や陰陽の二氣交てぬる小陰されたちていよかハ八

とて君よさなむと云だちあまてもぬふらさるる屋
抑のどくのいごに事あるぞはハ物少くよとふのいごあひ

何る厚う小仙と付も事候うけくたまはよ下和合をてき也

○彖曰小畜柔得位上下應チクハシウ エテ シキキフ ミヤウ カ 一曰小畜ワラズルヲコニイフ 一曰小畜ミヤウ テクト 一曰小畜ミヤウ テクト 一曰小畜ミヤウ テクト

卦の六に陰柔也て上の位 此までよ下の五陽是上意也

の才と、功得の位とあり。上の陰系も、意と、一を、
おをく、これあると、たふして、たふし、道も、たが、
たが、るの、
たある、て、有、あり、

○九二牽復吉、ハヒイテフクスキツシ けあ、る、至、処、に、陽、少、て、下、の、中、は、あ、る、ま、て、上、下、
志、と、同、し、て、牽、復、の、る、変、ま、る、と、く、二、陽、と、ま、て、む、し、ま、り、上、の、
一、陰、も、傷、を、あ、る、ま、て、復、ま、る、と、を、遂、く、有、る、ま、る、を、け、ん、持、
た、る、我、陽、の、勢、と、は、ら、り、進、ぐ、中、位、も、復、し、て、中、の、道、を、天、
変、な、り、情、中、て、ま、た、あり、

○象曰、牽復在中、亦不自失也、ヒイテフクスレハアリ、チウニニタ、ガレシ、ミツカララシナク と、云、は、を、中、も、あり、
て、上、と、下、と、く、剛、柔、の、は、ま、た、も、ま、り、進、退、ま、る、と、中、の、
道、城、失、つ、ぎ、る、を、陽、の、復、ま、る、と、ハ、至、勢、つ、ま、た、復、あ、ま、共、中、の、
あり、小、ま、る、進、む、と、は、ま、た、ま、つ、ま、た、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
少、く、失、な、ま、る、と、は、ま、た、あり、て、ま、た、あり、

○九三輿説輻、夫、妻、反、目、ハクシレニ、トク、トモニ、バ、ラ、フ、セイ、フ、ム、メ、ラ けあ、る、至、処、に、重、剛、よ、て、飛、
車、中、に、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
して、陰、の、た、め、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
行、と、あ、る、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
陽、と、制、し、る、ハ、夫、專、目、と、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、

と夫ありてふとあらばんことかめらうて妻あらむくはん
持て情ぞよはかり

○象曰夫妻反目不能正室也 こと云ハ夫妻の目とそごあ

ていふ家と心を妻あしむるハ道子背よりぞ君臣と下も

けし物と情ぞよはかり人の我と制さるよりあらむ我道たじ

からされバ道はるるのぞ道子たがむる極よ情でよはかり

○六四有孚血去惕出无咎 けあしり知ハ君よ近き位

少く君と畜ものこ内ハ字微のまことあるて君とと

むら付ら君と信としてととむら君とあるぞ君とと

とめんとすれバ害傷て血とあるぞとととつくと妻あま

君は小感意あつて従ふより血もさり惕あやうきとも

ぬれて无咎してよはかりとよはかりとととと

るの情少くよはかり

○象曰有孚惕出上合志也 こと云ハ上四の臣と

心と妻あまバ九五の君と信して志と合さるより

度きとあふして血去无咎してよはかりととと

せらるるの情字とととと

○九五有孚攸如富以其鄰 けあしり王親を中とと

信よそと、りり、字よん辨に、るがよ、主、形、馬、是、子、意、さる、受
 あるを、主、意、さる、受、の、を、た、ま、け、亦、い、て、お、ま、く、ふ、と、富、を、隣、に、成
 ま、く、ふ、の、受、少、く、ま、に、を、け、い、れ、物、を、て、我、よ、ま、に、受、ある、ま、と、不
 二、ふ、ん、か、く、迎、き、難、を、た、ま、け、と、下、カ、ラ、と、居、ま、る、根、よ、情、で、
 意、

○象曰、有孚、學、如、不、獨、富、也。と云ハ、字、ある、て、主、隣、の、難
 と、是、こ、ぐ、ひ、よ、る、受、ハ、我、獨、の、富、を、ま、る、受、あ、く、を、隣、ふ、の、と
 ち、ふ、し、て、ま、に、を、け、い、れ、物、を、て、衆、人、の、た、ま、け、よ、ん、衆、人、と、す
 ぐ、ふ、の、情、少、て、存、也、

○上、ハ、既、兩、處、尚、德、載、婦、貞、厲、月、幾、望、君、子、征、也。
 付、あ、る、と、而、は、陰、柔、の、ま、に、の、陽、剛、の、は、ま、に、の、と、畜、受
 ハ、儀、子、が、し、き、が、よ、を、徳、と、つ、ま、な、ま、受、あ、ま、ハ、既、兩、既、受
 ごと、く、私、居、し、て、た、く、と、ご、む、ら、れ、道、成、就、ある、を、知、る、も、陰
 ぞ、ん、陽、を、畜、受、は、婦、の、夫、と、制、し、臣、の、君、を、制、ま、る、が、と、に、ハ
 厲、と、何、る、ぞ、け、い、れ、物、を、く、月、も、望、あ、れ、バ、日、は、敵、ま、る、受、あ、ま
 幾、と、云、て、主、意、さ、る、受、あ、く、居、ま、ら、う、ぎ、あ、る、こ、ぐ、ひ、陰、徳、を、は
 み、渡、る、受、う、ま、情、を、く、ま、に、か、り

○象曰、既、兩、既、處、德、積、載、也、君、子、征、有、所、疑、也。
 と云ハ、た、く、と、畜、の、道、積、滿、に、成、就、ある、ま、と、陰、を、な、く、む、と、ま

るれ小なり、子動つとありてハ刺きぞ陰の陽子敵して小人の
君子とは言まるるがどにハ疑ところあるをばけハ持して前ミは小
驚怖イニミメヲヤケレあらバ凶事キは或るとなりけり子情づくを也

○元龜曰ハコニ画蔵寶劍之課、といふををこさハに成かさず、

ハ持ミヲ柔ク和クみしてカシ堪シまきるともにあり、密ヒツ書クよしてズふ海と

は人のためは苦哉カハ道ミチ成つともむる変カなけまばよに其あ

らんまれをぞのひぐじシあり、弟ニ相トをうるをまどくよはく

あんでカ名ナあるれ弟ニあり

○ト解曰カミソソニソニシモ上巽下乾ケトナリモツテヨララ以陽畜陰トバムイニラ、と云ハ付卦上巽下乾ニ云

種タネは陰カミめく五陽イニメをたく足タとむる変ハ陰カミと陽イニメと先マと

形カタは物モノの和名ニなるがこきぞけハ持ミとんニ変カの淑シク純ジュン者シヤと記キと

小コ弟ニまるとありむバハ身ミ幼コ子シ亨ケ通ツぎる時トキあらんニ短ミチ急イサなるこ

となりけりよハ情ニありてカ名ナ也

○ト彖曰ヨツテトキニイニメ因時リヤラ未利キウ未望バク多途トナリ、と云ハ時トキのマありきハ変カな

けまハ利リありむしてカ未ミメのぞむカ変カも多タあるてもカどカのひヒと

くカ海ミのマるハやハひヒるカ記キがどカしハハハたタありてカ名ナあり

○ト象曰ヨツテトキニイニメ因復リヤラ未利キウ、と云ハ物モノのマのマひヒがカらカにカ変カありカ家

人ヒトをカむカいカ多タくカとカありむカげハハハ持ミ持ミ情ニでカよカにカあり

○火歌曰コトクハカクシライ小畜コトクハ元来ハツムル聚不多ヨフカラと云ハ小畜なる故也
たゞとてとどめてあつまる多かりがば人多しの道ふさ
かりある厚く少く物のある多かりに厚くも情をて有あり
○評曰シニソク信息カ不通ツマヒ速行スベヤカニ却伏ユケバと云ハ人と和ワ離リする
厚くも心切ありてふにむいそぎてなせば通速ありがしき
あり速速チツク故もかんぐあきば成就するの義也

○風火家人

○繇曰カ家人シニハ利ハリアリ女貞シヨノ家人テイニ譽イ歌カのんヒトかりカ家カ域キよくキ
むらとは女の徳正しく情をて明ありゆ何れも女正はそ
情をきくまばも家をさするに正しくまば家法域カの
るゆは先女徳と情となくまばおのづかゝ家内和
しそのありありなりけし持と心内をさくゆあり時ハ亦も
自然シとととのありあり

○彖曰カ家人シニハ女正シヨノ位乎内ウチニ男正オトコ位乎外ホカニ男女正メノコ天地之大チチノ
義也ギナリと云はけ郵乃九五ハ陽の位小くよのゆあり

六二ハ陸の位ヒ出て内の中ハあり男女位ヒと二一クて三亨ニ上
内卯のハあきらハらハらハ天地乃ハ大義ハありハ世ハハ持ハ成ハ以ハ君位上
下ニ注ニとハたハぐハむハらハあハまハてハ一ニ城ニとハのハ一ニ山ニありハらハのハ上ニ小ハ順ヒ
まハづク礼ハ義ハ小ハそハむクとハ行ハなハのハ慎ハまハとハくハ一ニ行ハなり
○象曰風自火出家人君子以言有物而行有恒此卦
上ハハ巽ノ風下ハハ離ノ火あり君子ハ以ハ象ニをハんク言ト實ハの
至行とハ注ハめハたハくハらハむハけハんハ持ハ成ハ以ハ身ニとハらハぐハあハ一ニて三家
とハねハさハむハらハのハ情ハをハてハ一ニ行ハなり一

○初九閑有家悔亡一は剛陽の才ハとハんハ家ハ成ハたハら
乃ハ初ハ小ハありハ其ハ初ハ小ハくハ注ハ成ハ成ハのハ長ハ幼ハのハ次ハ也ハ男女の
己ハかハちハあるハ極ハ小ハぬハせハぐハけハらハ後ハ悔ハまハらハとハ一ニて三一ニ行ハなり一
持ハ成ハのハ一ニくハ男女ハ内ハ卯ハのハ己ハかハちハとハ一ニて三家ハ成ハ成ハるハ情ハをハてハ一ニ行ハなり一

○象曰閑有家志未變也一とハ一ニはハおハのハ注ハとハ一ニくハ初ハ小ハ一ニて三
あハやハまハちハとハぬハせハぐハハハ家ハ人ハのハ志ハいハまハぐハあハ一ニとハ一ニぬハせハぐハ初ハ前ハのハ
とハ一ニくハむハらハ極ハ小ハ悲ハ成ハ成ハるハとハ一ニて三志ハをハてハ一ニくハ一ニ行ハなり一
たハ小ハなりハてハたハきハめハんとハすハれハバハ情ハとハ一ニて三一ニ行ハなり一

此ハハ持ハ成ハてハ初ハ小ハふハせハぐハのハ情ハあハまハバハ後ハのハ悔ハありハ一ニて三一ニ行ハなり一
○六二无攸遂在中饋貞吉一此ハハ一ニくハ一ニ行ハなり一陰ハ柔ハのハ才ハとハんハ

陰の位もあて家成作らるるがきあふ遂にふかすと云ぞ
まり雨の記がごとしま後め英雄の人と云は情むおとがま
てハ七通と守とあてとぞ況弱の人ハ妻子の情お侍が
たしけら持成の婦人の酒食を後ぞく我とあふせむして
うらふ人兼あておむおむむらめはくしあふくふ記あり
○象曰六二之吉順以巽也と云は陰柔と申すの位は妻
ハ婦人の順徳ありてあてが女の義あり茲のぞく我白く
ぞらめあてが女の慎ありてよき事なり

○九三家人嗃々悔厲吉婦子嘻嘻終吝けあてり取ら内
卦の上より初より家人と云は五親はうきどりの義あり剛陽乃
はよりふらそハ嚴忌ときむく短氣なる悔と云ふことい
ふども家内ゆるまざしてとさゆらめあり婦子の常小味
と云ふてあの一む厚くふては法度まてお内と云ふまらむ
あはまち城生一厚ましけら持成情ぞあて治のたハな一
ふらとくそこあてんよりいさむ一ま市あて治の情あてふた
○象曰家人嗃々未失也婦子嘻嘻失家節也と云はあて
齊らぬの道白くまふふハ失なれたのしあめふハ礼法失
家成せとあふあり此の持と云ふくあてと守の情あて

叔物まゝの如き何しれ王を従ふ弥字をて礼法地印し家人能
化してたむかるよなき座うふとのありの情ありてよ記あり
○象曰威如之吉反身之謂也。と云は其家地よく治とは
我身と云しくまゝと本とまゝの如小身小かつまゝと云ありて
何れからされば家道地ふるりてと地持まげに物地よく
情よくまゝあり

○元龜曰入海求珠之課。と云は初艱難辛勞ける厚の
ととよくまゝのぎ遂に後子開花結子と云てよら記とあ
らんと云まゝあり

○卜解曰陰陽得位各行其正。と云ハ此卦陰陽たぐよ
位よありて内よ求るとあまば内よ正しき助あり卯よ求
ると何れバ卯よ正しくつりまゝなるものありて内かとのありて
吾のありありあまの道のどくありて業変化能
まゝとありんと云まゝあり

○火歌曰家人修内莫餘外莫相行。と云ハ家人占を家
まゝありてよく内のまゝとれさめ帝の道小依く身せ座ま
まゝとありんと云まゝあり

○十干詩断曰家道年未盛陰功在祖宗。と云ハ家道

年々厚く盛るゆふは功其先キ何れゆふあり
玄徳よ人のあらざば雨ふためて善まざるは情あら
其徳澤子孫不及ぐまらるるべし

風雷益

○ 繇曰、益利有攸往、利涉大川、益象ますとむむ益と上益損

て下益益の多かり下もあつけきバ上もこのづから安し

上益雷乃風、上と下との相益益とく威勢も

あつてもさるるをばらちまて身も威勢は益とく

川流流るるを難るるを益とく

てまらるる

○ 彖曰、益損上益下、民説无疆、自上下、其道大光、

上益損して下を益とは、民の説と極るるを玄徳よ

至る、之、而、下、モ、子、く、ぶ、る、を、し、て、情、あ、ら、ば、誼、共、道、大、い、は、何、る、を
 何、む、此、卦、の、九、五、中、正、の、位、也、に、言、信、を、居、て、下、モ、の、言、二、七
 中、正、の、道、也、に、是、し、も、善、き、者、ハ、上、下、ト、此、慶、會、ト、然、ラ、バ、大、川、也、海、
 じ、き、の、危、ト、何、り、と、海、リ、ま、ま、一、と、利、き、る、と、あ、ら、む、也、地、の
 物、を、益、す、理、の、窮、る、に、と、く、聖、人、の、天、下、也、益、ト、時、も、意、ト、
 程、も、あ、ら、ぐ、い、て、其、用、を、ら、し、也、故、也、情、也、と、あ、ら、ば、益、ト、あ、
 ら、ん、と、し、も、あ、ら、む、に、

○象曰風雷益君子以見善則遷有過則改、と、し、も、ハ、風、連、
 ぬ、れ、バ、處、を、げ、し、ま、く、處、に、速、と、化、し、風、疾、よ、し、て、互、に、利、益、の、道、

君、子、け、象、也、見、て、益、也、物、を、未、と、善、也、見、て、ハ、遷、也、過、あ、ま、ハ、速、
 又、改、也、物、を、た、く、と、ご、り、と、改、益、也、情、也、ま、ま、と、あ、り、

○初九利用為大作元吉无咎、け、何、く、言、ふ、ハ、震、の、主、を、剛、陽、の、

登、る、者、の、也、も、ま、物、を、益、す、也、り、て、下、は、居、る、上、の、大、臣、我、し、
 意、を、凡、り、も、あ、る、もの、は、物、也、を、さ、さ、し、と、か、し、き、り、の、あ、れ、は、上、の、大、
 臣、也、我、し、意、を、き、る、もの、何、り、も、ら、道、也、に、上、也、補、て、大、い、ハ、天、
 下、も、益、と、さ、さ、さ、した、利、用、也、大、作、と、云、下、は、居、る、上、は、用、ら、
 せ、共、志、と、行、つ、ま、り、大、善、也、善、何、ら、ま、を、善、也、也、大、善、は、あ、
 ら、ざ、れ、バ、と、地、累、し、て、ま、か、ら、ざる、と、改、也、情、也、と、あ、り、

るものはお慈しくも益と成行つものあり、利あると何んぞけ
し物成情中成誠實よりと物どめぐこまきと何んばも大
者ありと不問しと知つるものあり、

○象曰、有孚惠心、勿問之矣。惠我德、大得志也。と云は至儀
ありて、人とお慈を益と何んより元吉ありて、我は成
情、人とお慈とありば、至道大いよ作て、人のよくなるの志成
せし、何んむと何んあり、

○上九、莫益之、或擊之、立心勿恒、凶。此何んぞ知ん、益の極
ありて、益成来と甚きありて、衆の怨とありて、益成
のなきあり、此は物成情、物の来もかほぐなきとなき成りよ
情とあり、

○象曰、莫益之、偏辭也、或擊之、自外来也。と云は益と成
偏、物来とどしと公道より、物成情あり、人益成益と
ありて、至道より、人益成来れば、人の里の亦と益と益と
し物成情、利成来とどしと公道より、物成情あり、

○元龜曰、鴻鵠遇風之課、と云は飛行して自由
あり、ものなき風はよきば自由なり、と云は飛行して自由
らば、何んは益とあり、何んは益とあり、

○ト解曰益増益也風雷の威響あるがごとく何れも然る若くは
ふしバ損失あるものこ遠慮するがごとく始終の恒成あり悟るは

○火賛曰風雷相奉益道如然少人のこと何れもてハ益の道は遠
慮し形骸をばくして憊をばくし何れもてハ益の道は遠

○火歌曰風雷扇物益於人竹木美物と動はき
ごとく衆人成まきものし持何れもて遠慮の事も文あは

ま教をぬきんでくると功成るまことあはむ

○ト彖曰本末未善外助相兼といふは拘の始終をばくし
何れもてはあはるるとあはくおのたまけと兼てふにぞ然るも

よく遠慮するはまば不慮のよからざること何れも我を謙
退して恬あらば風雷の益ごとく自然に精あはむと子
美あり

天雷无妄

○繇曰无妄元亨利贞其匪正有眚不利有攸

性无妄ハみどりかるともむぞげ卦上乾の天めぐ下ハ震乃

高かり其動と天の道よ叶つたれど一動ある人欲は

さる時ハありきぞ天の象は威勢もある人欲は

ごとあるぞげハ折衷ハ真正の徳よ叶ふ様よたしき行ある

ことなり厚うも情よく也

○彖曰无妄剛自外来而为主在内动而健刚中而應

とらふは陽来と動天の道也君ある変あらば元无妄の道也

後子^{ミコ}後^{ノチ}ありあへく天の道^{アメノミチ}は因^{ヨリ}地の利^{チノリ}のたがふよき^{ヨシキ}は^ハなり

○象曰不耕^{ソノ}獲^{ハク}未^ヤ富^{トミ}也^ニと云は農業のたが^カ厚^クく^ハ獲^{ハク}地^チ新^ニ田^{デン}より^ハ在^リ田^ノと^スまる^ルハ人の^{ヒトノ}あ^ハま^ハの^ノさ^ハの^ノさ^ハよ^クして^ハ必^ズ富^{トミ}と^ス飛^ビの^ノん^ハして

た^ハよ^ク勤^ク無^ク妄^クの^ノ道^ノよ^クあら^ハむ^ハけ^ハし^ハ持^テ地^チ情^ニと^スなり

○六三^ハ无^ク妄^ク之^ノ災^ニ或^シ繁^ク之^ノ牛^ヲ行^ク人^ノ之^ノ得^ル邑^ノ人^ノ之^ノ災^ニは^ハ吉^ク知^ル

無^ク妄^クを^シて^ハみ^ダり^ハなる^ガた^ハよ^クよ^ク意^ゼん^トま^レバ^ハ欲^シし^ハ勤^クよ^クま^シ

災^ニある^ル人^ノの^ノま^ダり^ハよ^クし^ハ勤^クま^シて^ハ半^ニを^シ獲^ルあ^ハら^ハむ^ハ事^ハ打^テに^テ厚^クす^ハ情^ニ

に^ハと^ス失^フと^スあり^ハよ^クま^シると^ハ邑^ノ人^ノの^ノ災^ニある^ルぞ^ハけ^ハし^ハ持^テて^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

ま^シて^ハ又^ハ必^ズ失^フ事^ハある^ト也^ニよ^クし^ハ勤^クま^シて^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

○象曰行人^ハ得^ル牛^ヲ邑^ノ人^ノ災^ニ也^ニと云ハ行人の牛^ノと^スなる^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

邑^ノ人^ノの^ノ災^ニと^ス失^フ事^ハある^ト也^ニよ^クし^ハ勤^クま^シて^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

て^ハ一^ニ得^ル一^ニ失^フの^ノ程^ニと^スま^シて^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

○九四^ハ可^ク貞^ク无^ク咎^ク也^ニは^ハ剛^ノ陽^ノを^シて^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

也^ニは^ハ剛^ノ陽^ノの^ノ位^ニあり^ハバ^ハは^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

と^スあ^ハま^シて^ハ陰^ノの^ノ位^ニあり^ハバ^ハは^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

私^ノあ^ハら^ハむ^ハと^スあ^ハく^ハ貞^ク固^クと^スか^ハく^ハた^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

○象曰可貞^ハ无^ク咎^ク固^ク有^ク之^ノ也^ニと云ハ陽^ノを^シて^ハ陰^ノの^ノ位^ニあり^ハバ^ハは^ハ意^ゼん^トま^シよ^クなる^ト

よ、貞園子ちりて、イシヤシ啓怒たり、イシヤシ何れあるまで、情ごくよにあり。

○九五、无妄ハブ之疾ボウノ、勿藥ヤミイアリ有喜エフメクスノ。有喜ヨロコビ、イはあたると、イは中凶のたぐい、イは

徳ぞい、イは信イありて、イは意イきり、イは心イも、イは元イ妄のつらきあり、

凡イ人の疾イある時と、イは茶イを、イは邪イ氣イを、イは交イハ元イより、イは

しき、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

の、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

ま、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

○象曰、无妄ハブ之疾ボウノ、不可イ試イ也イ。と云ハ、イはみイり、イはし、イは

改イ命イ、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

ま、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

○上九、无妄ハブ之行ボウノ、有イ眚イ、无イ攸イ利イ。と云ハ、イはみイり、イはし、イは

極イと、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

と、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

○象曰、无妄ハブ之行ボウノ、窮イ之イ災イ也イ。と云ハ、イはみイり、イはし、イは

と、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

と、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

○元龜曰、石中セキ蘊イ玉イ之イ課イ。と云て、イはみイり、イはし、イは

これざる心イ持イぞ、イは子イ強イも、イはせん、イはま、イは元イ妄イも、イは茶イ用イて、イはみイり、イはし、イは

○ト解曰、无妄者、无虚也、と云ハげ无妄ハ虚を言ふと行ふて、
理自然の義也、そのどほしくこれと修して、妄なる妄を動を能く守りて、
妄うちも危やとままれざるの慎まてよらあり、

○ト彖曰、事恒中正、不恒其女、競、とらあらとくよ中とたぐ
いらあらしてよ恒あり、妄よあらそひよとれし法と犯まどまあれ
あまてハあまきなり、妄ありとなけまバ病の薬使用どしてよらひ
ありがどく情どくなあり、

○火贲曰、天雷震、響驚馬怖臨危、と云て天雷の物ひとど
がどく物のまけしき極成事成れとくとく危と情の怖あり

此バ、娘ハ心かりざる、妄も後ハ者ある妄と始りの義あり、

火雷噬嗑

○ 繇曰噬嗑亨 利用獄

噬嗑 火と雷とあると云むを

抽の通亨と成りたるハ厚で何るものあり小はれ王是成

に力中^{ツチ}は抽^{ウチ}ありて通^ス王ふきの象と次^ハ齒^カをんか三ありは

ハ^ハまふこちととる変と^ハ成^ル去^ク程^ニハ^ハ中^ニ小^ニ物^ヲ有^テ通^スなる

成^ルなるぞ^レにの^ハ厚^ニて^テ王^ノの^ハ変^ト成^ルなる^ハ以^テ王^ノ情^ヲ偽^レと^決

断^シして^テ其^ノ苦^ヲ忍^ビと^云ら^フと^レに^ハ厚^ニて^テ王^ノの^ハと^云く^レして

成^ル王^ノ成^ルなるぞ^レに^ハ物^ヲ小^ニ物^ニ一^ニ物^ヲ小^ニ程^ニ急^ニなり^テ厚^ニなり^テ情

成^ルなるなり

○彖曰：巽中，有物曰噬嗑。噬嗑而亨，剛柔合而章。と云は、け卦上ハ離少ク、火あり、下ハ震先也、動而明、雷也。電合而章、と云は、け卦上ハ離少ク、火あり、下ハ震先也、動而明、雷也。を、其れどと云とな記ども、人の情をかくを、知ふして、を、其れどと云とな記ども、けに、物と情と、六五ハ陰柔ホして、位ホあ、このどと、し、と、剛柔と、このま、る、小、より、剛柔ホ、よ、て、是、悲、成、決、治、極、よ、い、け、ある、ま、て、者、なり、

○象曰：雷電噬嗑。先王以明罰勅法。と云ハ、震為雷、電、ハ、噬、の、象、也、先、王、是、を、象、と、く、威、勢、ある、と、電、の、象、を、し、法、と、く、刑、罰、を、明、小、一、は、金、と、その、の、象、を、か、せ、り、け、に、物、め、く、変、の、理、を、明、よ、一、て、法、を、犯、を、事、を、治、と、厚、よ、ま、る、の、情、を、て、よ、い、あり、

○初九：履校滅趾，无咎。けあり、知、れ、け、卦、の、初、九、て、少、過、ある、が、と、く、少、人、の、罪、を、犯、一、て、と、が、め、成、交、る、が、と、記、や、け、に、物、よ、て、物、を、約、の、少、る、時、は、懲、一、て、能、情、を、る、ま、時、ハ、大、に、傷、る、ま、く、替、か、ふ、一、て、よ、い、あり、

○象曰：履校滅趾，不行也。と云ハ、古人の法を用、変、ト、なる、もの、少、の、過、ある、所、は、戒、と、あり、其、惡、を、長、せ、る、故、

小六の、玄履よ、所持と群子あむ、然事よ、心と動し、
進ざるの情少く、なかり、

○六二噬膚滅鼻无咎、は南、処ら、刑罰と用、その小
て、むむ、皮とけり、小なり、罪ある、臣の、被し、履まき、ぞ、噬膚
とハ、入履きたと云ぞ、け六二の位、下の初九の陽剛の、情も、
おのりて、是を、刑まる、皮、柔弱、小なり、てハ、泣く、ざる、小より、
刑と、きび、あく、して、鼻と、滅が、とく、あて、答、あき、ぞ、け、ん、物と
以、我、身、陰、柔、なり、も、剛と、泣、小、辛、苦、あり、て、人の、服、る、位
小、情、と、泣、あり、

○象曰、噬膚滅鼻、乘剛也、この、あ、は、剛の、情、た、ま、の、
制、ま、あ、ま、ハ、嚴、工、の、る、程、よ、り、て、あ、も、と、け、る、ん、
物、少、く、も、か、く、ぞ、お、と、被、た、じ、中、正、の、情、を、あ、ま、か、あ、ん、
情、で、な、かり、

○六三噬腊肉遇毒小吝无咎、は、あ、り、兩、ら、下、の、よ、
ふ、履、く、刑、と、用、ま、の、ぞ、を、る、と、信、ま、あ、ら、ざ、り、て、人、と、刑
ま、ら、よ、り、人、被、せ、ざ、り、て、う、り、こ、さ、か、あ、事、あ、る、ぞ、乾、腊、の
く、し、た、物、と、噬、く、は、と、履、ぶ、る、が、じ、し、け、ん、物、少、て、我、才、位、よ、
こ、ら、ざ、る、あ、り、皮、と、被、つ、ま、な、ま、あ、く、も、く、か、ん、履、ま、れ、

ズトありざる極ありても替ふやして意也

○象曰遇毒位不當也。とよハ陰少く陽の位は居て
ハ位よあこらざるぞけしお少く過少刑罰をばせバ人彼
セざる事としお少く辱らるがごとくかき合まるの
情めてよはかり

艱

○九四噬乾肺得金矢利艱貞吉。けあこまハ君
小近き位少く中とよて剛陽なるより刑を用と強
さか人あつものぞちふより乾肺の如くしお相をかむ
爻の理也とよく決断し噬食くよたご金矢と如く

とく剛直の法とくは道我よあるともも事とゆかり
せよする爻少くちりありてよたごけしお少て我剛はの
つとく明なるとん傷る事おに辱るは威勢あるとも人を
毛しめらて辱らるるあるの情少くよたかり

○象曰利艱貞吉未光也。と云は爻とよく正かて
ちなる事ハ我よあるの道中よたご爻事あこまざるは
かけしお少く眼よの成能合まる貞固のまよりよて
○六五噬乾肉得黄金貞厲无咎。けあこまハ君位

れ共陰柔なるより乾肉の如くはもの成かむとよく

ふいふに思ふにぞ、玄徳の美言をばりて、中道のた
波をこらひあきて物をねそれあはれむん、折我もあて
まゝ人の輔をばりて、慎中くもにあり

○象曰、貞厲无咎、得當也。と云て、貞ふして咎あり、

ハ、ま行なす知も道小あふふらぞ、は折我情、正と身、
あはれき、休をもんごかりて、まにあり

○上九、何校滅耳、凶。と云、処を、言信よるごとく、位のおき

まのくごにぞ、け部の終ふありて、辱ぐるま、たよ、まに
ぞ、小人の、言き、まほりて、罪の大なるが、ば、は、折我

あきま、ハ、やくあ、なむらの情、小て、まにあり

○象曰、何校滅耳、聰不明也。と云、は、人の物と、まにこ

と、明ふせむして、あきま、のつらと、あらざるが、ば、は、
折を情で、物ときくま、明よして、悪事ときい、く、ま、あ

ら、なむぶと、に、ハ、まにあり

○元龜曰、日中為市之課。と云、ハ、市、中、ま、あるごとく、人の

ま、ハ、中、ま、あ、ま、て、感、あるの、ま、也、願、中、在、物、と云、ハ、仁心
あ、ま、て、人、ま、め、ま、な、ら、る、ん、故、ま、ま、に、あり

○ト解曰、噬者啗也、嗑者合也、人の口、ま、物、の、ま、て、ま、

げはむかむかきあせそく通れどくま少し辱せそのまめいも
よくま変ぞんぐそのあるまあうバ通ざるまぞかどし
○ト兼曰事コト或アルイハニダ未平タイラカオラタメニモ為物所ラレハ礙サハと云ハまのいまどたいら
小ならぶこして礙サカル事コトありともよく情ど財用とんあする
の心持少くまにかり

○十干詩断曰刑獄事ケイゴクノコト頌利スベサラクリル先防郡ニツフセグ小争ミウノアラソイラと云ハ刑
獄のう川ああるまハ小人の争アラソヒなれ辱う小ふせいで明鏡
のく物と照テラもどく小ハ物ぬかしてまのあいうう流
辱う小思多てまにかり

山雷 頤

○繇曰頤貞吉觀頤自來口實 頤豊辱かふこよ

ひと人の身と辱かひ人ぞ辱かひ人よ辱あらうと時見
西記道スミシ徳イハいしと次玄テイエン福キヨと云ゲンキヨ食物と情とハ福ワカレヒハフチ
王イテ如ヤ病イハ口フチより入イルと成ナあそりく道ミチせばケシ物モノ少くハク慳ケシ貪ヒシ施ハク逸イウ成
ふふに辱うフチ情コトでまにかり

○兼曰頤貞吉養正則吉也 といふを主人を辱かひ

我身と辱かふと時見道のたぐいさどんきり耐ハ存ありて天地
の美地ミチ辱かふまもフチ西記スミシ又と夫ツハ階陽カハたれとフチ美地ミチをフチ

と遊るもあはれにむげん持めて、聖人の時着と巻下し、思慮を
民よおまがまをどくふに人成居るひたよ天禄と永まる極よ
たゞ後なまの情よそふにあり、

○象曰、山下有雷、頤。君子以慎言、節飲食。と云ハ
雷の山下はぬちふハ、君子本成、動して生長せむるの時あり、
君子は象と云んく、云はれは、志むぐ、あはれまこと、飲食を節よ
くして、厚ぶらきざるやうよして、身を厚く、徳を頤くのをど
よ、身よふまをどまされざるの情よそふにあり、

○初九、舍爾靈龜、觀我朵頤。出。はあはれ、知ハ、靈龜の
云々のハ、天地の氣也、咽て食物をままど、物を貪らふに、
まらんば、女也、智の才也、是て、靈龜のどく、
はらものよ、意ぜん、心と動して、貪未ハ、私欲よまも、
の象と、飲げん持よん、陰柔のあき、
象曰、觀我朵頤、亦不足貴也。と云ハ、
象のよ、志を動し、私欲のためよ、
健明智の才ありても、
めよ、
○六二、頤頤拂經、于丘頤。征。出。は、
け、
陰柔、

象曰、觀我朵頤、亦不足貴也。と云ハ、
象のよ、志を動し、私欲のためよ、
健明智の才ありても、
めよ、
○六二、頤頤拂經、于丘頤。征。出。は、
け、
陰柔、

ふと陳、あつとあつと、人々を御するを、爰と云ふ。爰と云ふは、
爰のトモ、成州のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、

○象曰六二征 凶 行失類也 と言ハ、上より下へ行くは、失類也、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、

○六三 拂 順 貞 凶 十年勿用 无 攸 利 一 けあつと云ふは、
陰陽のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、

○象 七 十年勿用 道大悖也 と言ハ、上より下へ行くは、失類也、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、

○六四 無 順 吉 虎 視 眈 眈 其 欲 逐 之 无 咎 一 けあつと云ふは、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、
爰と云ふは、爰のふとを、理の正と云ふ。爰と云ふは、爰の剛陽のふと、

かまなりと云ふも陰陽の正意を以て道の正なり大匠を以て
の信より何れもの陰陽少く我々のたりざるを以てりる剛陽の
ものよ志を以てして轉じて居るの時也抑して威を以てしなば
と云ふは虎の視ごとく威嚴ありて主を以てする如しに剛陽
を以てして居るを以てしてと云ふ義あり

○象曰顛頤之吉上施光也 といふはさかまに光を以て
を以てしてハ剛陽のものは意を以てして居る少くして救はざるは
抑して我身よりあると云ふも主たりざるを以てして居るは
ものよ意を以てして居る時ハ我々の信を以てして居る衆人より

被るもの信を以てして居る

○六五拂經居貞吉不可涉大川 けあつるを以て居る

信よりあるを以て衆人より居るを以てして居るは
小しきもの剛陽の賢才より居るを以てして居るは
相違なくしたる賢師などより居るを以てして居るは
衆人より剛陽の道徳を以てして居るを以てして居るは
を以てして居るの艱難を以てして居るを以てして居るは

○象曰居貞之吉順以從上也 といふは貞固のたぐを以て
信を以てして居るを以てして居るは衆人より居るを以てして居るは

おふ変、聖人の賢臣と成り、法と善、馬子及去の道也、けん妙を
以、我の心、ましくよおまきと成り、とて、るよ、あ、こ、ぐ、ひ、ふ、れ、の、よ、た、の、ミ
よ、の、情、少、く、な、り、

○上九、由頤、厲吉、利涉大川、ハヨリテマキカレマキフメキフ、リマリ、ロタルニ、タイ、セニラ けあし、王、処、ハ、剛、陽、の、賢、臣

あり、し、陰、柔、の、よ、れ、の、我、よ、あ、こ、ぐ、ひ、ま、た、の、み、よ、る、と、
かく、の、こ、ま、き、人、よ、任、せ、ら、ま、て、ハ、危、キ、と、成、畏、し、我、が、オ、カ、と、は、く、其、
変、と、執、て、艱、難、を、も、救、て、ふ、れ、を、げ、し、物、成、り、位、た、く、人、よ、あ、い、

ト、い、せ、ら、る、く、処、の、ま、の、ハ、端、厲、情、多、て、ふ、れ、あり、

○象曰、由頤、厲吉、大有慶也、イ、シ、ト、ム、ニ、ア、ル、ニ、ヨ、ロ、コ、ビ と、云、ハ、大、イ、る、変、と、任、せ、ら、ま、

て、ま、ま、と、情、を、こ、ま、ひ、て、衆、人、の、も、ま、性、法、と、か、ら、む、ら、志、め、て、
一、所、を、あ、ら、う、ま、情、で、あ、り、

○元、龜、竜、隱、深、潭、之、課、リ、ヤ、フ、カ、ク、ル、ノ、ミ、シ、ン、タ、ニ、ニ と、云、ハ、幽、の、ま、く、あ、り、威、あり、も、

深、潭、み、く、ま、変、と、く、才、智、と、不、能、徳、と、一、所、を、あ、ら、う、ま、情、多、て、な、り、

○ト、疾、曰、口、能、招、辱、出、入、恒、節、ツ、ナ、ヨ、ク、ニ、チ、ク、ハ、ツ、カ、シ、メ、ラ、シ、シ、ツ、シ、ツ、ヨ、ロ、ク、フ、セ、ク と、云、ハ、言、徳、と、情、多、く、出、入、あ、

ら、ま、ち、な、ら、ん、辱、う、ま、節、と、守、て、人、より、辱、と、成、る、辱、う、ま、防、心、
お、つ、く、な、り、

○十、干、卦、の、断、曰、分、量、隨、縁、不、可、移、狂、口、躁、進、招、憂、危、
ブ、シ、ハ、ヤ、フ、シ、タ、カ、ワ、テ、エ、ニ、ニ、バ、ベ、カ、ラ、ラ、ツ、ル、キ、ク、コ、ウ、ソ、ク、ミ、シ、ス、サ、ハ、ミ、キ、ク、ユ、ラ、キ、ラ

と、云、ハ、我、が、あ、ら、う、ま、く、ま、あ、り、ま、か、ら、さ、る、あ、ま、よ、し、の、憂、後、と、な、り、

戯ウラハシある言コトバと情サカサシ躁サカサシ進サカサシいふくまじくめきまよ着キまるるか
けきバワザウレ疾ワザウレあるまゝのく福サイウレあるまゝてまかり



| |
|------|
| 132X |
| 32/8 |
| 10 |